此如し

[redacted]

神の武物語

上下

九曜文庫

中菅(むし)の事也有けん河内の国かなり
屋無ふ海中の与ふ孫も無ふ也いふ人ま
しく毒殺の者ゆゑ持ずふ於道ゑ
とりし文事ゆゑ詩ゆゑ書ふ心ゆ
ゆゑ日本の花のもとにゑハちりもれを

もつとかくなん

若こんと若の様に筆行志

なとふしかゝ見契りなるらん

と打涙ゆまいはさりしいはれ給へす

いく千代とふし流とらん作の

契りハさへ〳〵つ者れまつ刑し

扨さしかゝ度ハひよくれんと浅くれ

契らぬかふつむとまとしまとなるのもま

こゝ夏人の志事絶られたるしかゝ度しそ御かゝ

うこえかよりぬかふぬをましそよとこえ分こゝ

もいはしきと男ハ何なるしかゝ立分かふ方ハ何の

御かゝきめうちかつ見氣ゆかんとしめふとまた

んをよこふくまぬ抱ハなかなりゆる時を我分

なしんきとり夜明けこゝ方とこゝまゝ入おりて入

らをたまへまハ御かゝきかゝ見つかなくおもひ

こゝかくす

人倫としらて孝のこゝろなきハ
孝者美徳所してこそなる
くすふに於て源ハなしてハよくしせし二親より
源し我ハなハ生れくるものといふハましてゆかしき恩
か今にいたるまで我身にとりてきかしゆ夜ハ世
かも人なれバふかきなる事なりて其
母とと思ふなる祖母の母上の恩を忘れひさる
とも我中らんぬのこふかくはよとのたまへバめ

とのみこの恩ゆゑめのと申しける父母物語させ給ふ
ちしゆ我ものゝこゝろすゑもなくおもいの外にめ
こ冥かとかくさるしもかれ哀我いさめ給ふべき
かちかつら恩あるにもかく〳〵とのたまへバめのと
我若の涙ふく見る物となし物語したまそ
さあらハ我ら若衆恩らぬハ孫なを母と
の御我見ふし給ふべきかくよの世をかはし
ぬし恩ありハ父の見しにて恵されば孫の命

る三ツなりの楊白金にとつまり有る
あんほのあし十二年とくの法の種にあるの
ちしほの袴(たかま)なすの寶物成入るもとより姫君二
まゝ成ることまひとし我母を御の親意成なし
あひし法事志ありと云ひして嫁しもしたとう往
し祝ふとさ祝ふの物ハ浅成り扱さふしやう後
是成ことあひとし是種のいこし把(き)ひ給ひ小御
まし事ことの嫁しもよ今何ふも好しき

にあらず是ニ嫁会せの座愛あんとこしらへ
あふすとにたゞ病も明りまハせあんさるめ
きる人ゝいるハ是種の法座愛ハ安御
かつきかんと云ふ何ふへも西ゝ奴事のふと見
しんをよこまひるをる種にこましとふまし
りまハちゆしの法嫁ゝせんハもんやうなり
法志ありしに法年の種月二三年とこゝ奴
此ハ九月長ちの事あましをほさふハ白紀法

小袖とハ数しれる小袖白をさへけ褄ふき
しかれともハ折小袖あまりあるとも中通し
たり出抱小ハ尾綾十丈小袖十重ニ広ぶた
入にて御祝ニ二男の嫁子ハ其年ハ大半小袖
さんの事ハかしてけるかく人にも定まりて
あふれてしハ折ふひとしく其志まゝにて
まことにハ志をしれ其給ら人にハすへてあれ
其小袖ハ紅梅の添抱其褄ふしにて数り

御抱小ハ小袖二十重ニ御入ニ二男の嫁子
前ハ其年大半ニ見ことにて折小ハ白
とも月に替へまゝ花かたにまゝさせて三褄
其風情之其志りて小ハ紅梅の其小袖十二小ハ広
綾きりて其り小抱小は深抱大夜御入
あふ三人の其嫁其本抱まゝして地其深之
故其かハ定めて数目おも中ふまた定めも和
七外りの里をかんとうしらへ萬人ともに合

文化十一歳
戊九月吉日

冢之